

介護福祉領域における職能団体についての意識 ——山口県美祢市介護福祉士へのアンケート調査から——

山内朱美¹、伏谷昇造²、藤田大介³、三吉智美⁴、田村真智子⁵

1) 2) グリーンヒル美祢 3) 幸嶺園 4) 5) 田代台病院

I. 研究目的

職能団体とは「法律や医療などの専門的資格を持つ専門職従事者らが、自己の専門性の維持・向上や専門職としての待遇や利益を保持するための組織である。同時に研究発表会、講演会、親睦会の開催や、会報、広報誌などの発行を通して会員同士の交流などの役目も果たす機関である」¹⁾。介護福祉士会は、職能団体への加入の義務付けはされていないが専門職として資格の取得がゴールではなく、資格取得後も「資質向上の責務」(社会福祉士法及び介護福祉士法第47条の2)があり、知識や技術の向上など自己研鑽に努めなければならない。

しかし、山口県の介護福祉士会への加入率は14%(平成21年度)²⁾で、日本介護福祉士会の5%(平成21年度)³⁾よりは高いが十分とはいえない。他の職種と比較してみると、看護師の看護協会への加入率は57%(平成21年度)⁴⁾であり作業療法士の作業療法士会への加入率は95%(平成22年度)⁵⁾である。職能団体への意識の違いが明確になっている。

私たちの勤務地である美祢市は介護保険サービス提供事業所も多く、介護職員として職務に従事している人が多数存在する。平成20年3月に市政合併するまでは圏域もはっきりしておらず、それぞれの事業所が活動しやすいブロックに所属していた。合併後も未だ統一が図れていない現状がある。介護福祉士会への入会についても把握が困難な状況で、介護福祉士会への入会理由、入会しない理由、介護福祉士会に期待する役割を通して加入率向上の参考とするために、調査を行った。

II. 研究方法

1. 対象

2010年11月19日時点で美祢市内の事業所・病院へ勤務する介護福祉士210名。

配布事業所種別は、訪問介護事業所・8事業所、デイサービス・9事業所、デイケア・2事業所、養護老人ホーム・1事業所、特別養護老人ホーム・4事業所、老人保健施設・1事業所、グループホーム・3事業所、

ケアハウス・2事業所、有料老人ホーム・1事業所、障害者施設・1事業所、病院・3事業所。

配布数210、回収数188、回収率90%

有効回答数185、無効3

2. 調査方法

留置法による自記式質問紙調査

3. 調査実施期間

2010年10月19日～11月19日

4. 主な調査内容

美祢市内に勤務する介護福祉士の基本属性に加え、介護福祉士会への入会の有無、入会理由、入会しない理由、入会の条件、資格の取得理由、介護福祉士会へ期待する役割などの項目について調査した。

5. 調査に際しての倫理的留意

調査実施に際しては、当該施設の施設長に承認を得るとともに、調査対象者への調査目的の説明を行い、同意を得た。調査データの取り扱いに際しては、対象者のプライバシー保護に留意し、研究者のみが管理し研究以外の目的には使用しないことを書面にて説明した。

6. 分析方法

アンケート調査のデータを、単純集計およびクロス集計で示した。

III. 結果

1. 基本属性

性別は、女性148名(80%)、男性37名(20%)となっている。

年齢別でみると、20代・38名(21%)、30代・47名(25%)、40代・32名(17%)、50代・51名(28%)、60代・15名(8%)、70代・1名(1%)となっている。平均年齢は42歳であった。

所属している事業所別でみると、訪問介護・26名(14%)、デイサービス・11名(6%)、デイケア・4名(2%)、養護老人ホーム・6名(3%)、特別養護老人ホーム・67名(36%)、老人保健施設・16名(9%)、グループホーム・4名(2%)、ケアハウス・7名(4%)、病院・36名(19%)、その他・7名(4%)となつて

いる。

現職場での経験年数をみると、1カ月の人が最短で、33年6カ月の人が最長であった。平均は、8年8カ月であった。

現在働いている職種は、「介護職」150名（81%）、「相談員」11名（6%）、「介護支援専門員」10名（5%）であった。

2. 介護福祉士会への入会について

介護福祉士会へ入会していると回答した人は71名（38%）、入会していないと回答した人は114名（62%）であった。入会している人を年齢別にみると、20代の加入率が最も高く38名中21名（55%）で、50代は51名中13名（20%）と低い加入率であった。（図1）

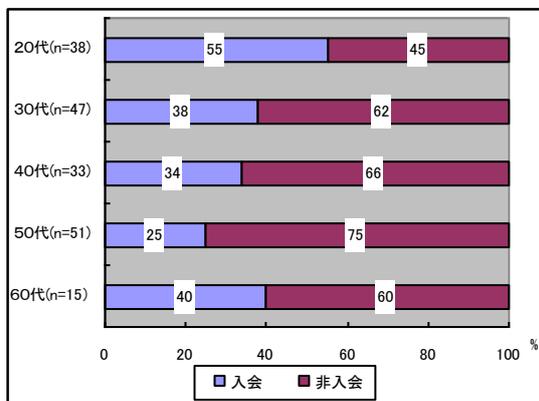


図1 年齢階層別入会の有無

入会理由としては、最も多かった回答が「専門職として入会が必要と考えたから」（34%）、次いで「勤務先の上司・先輩の勧めで」（32%）、「専門職として資質を高めるため」（30%）などとなっている。（図2）

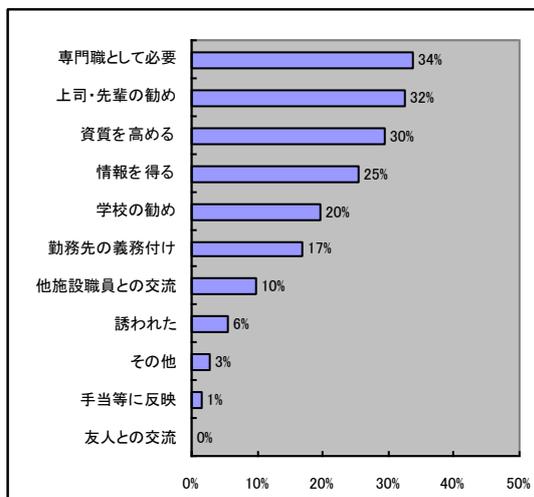


図2 介護福祉士会への入会理由（複数回答）

一方、非入会者については、最も多かった回答が「入会金や会費等お金がかかるから」（37%）、次いで「資格の取得だけで満足したから」（24%）、「介護福祉士会の存在を知らなかったから」（21%）、「以前は入会していたが脱会した」（16%）などとなっている。（図3）

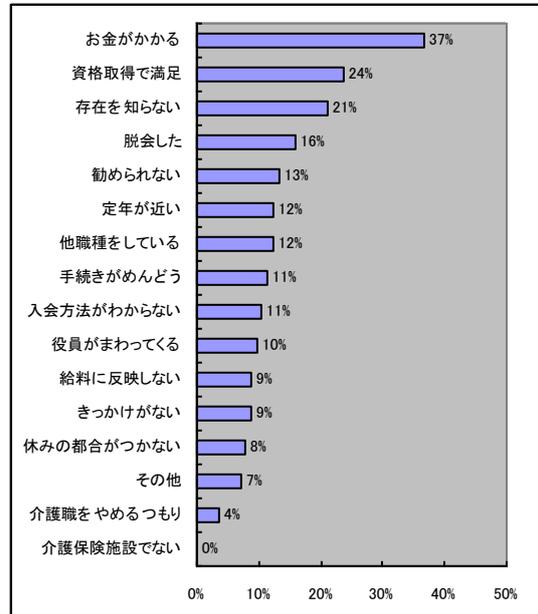


図3 介護福祉士会へ入会しない理由（複数回答）

非入会者にとって入会できるための条件は次のような回答であった。「必要な情報が定期的に得られる」（43%）、「入会すると給料の手当等に反映する」（29%）、「会員として活動しやすいように勤務の都合がつく」（25%）、「勤務先で研修会等の費用の負担がある」（19%）、「教育・研修体制が充実している」（18%）、「勤務先や現在会員となっている方からの勧めがある」（9%）などとなっている。（図4）

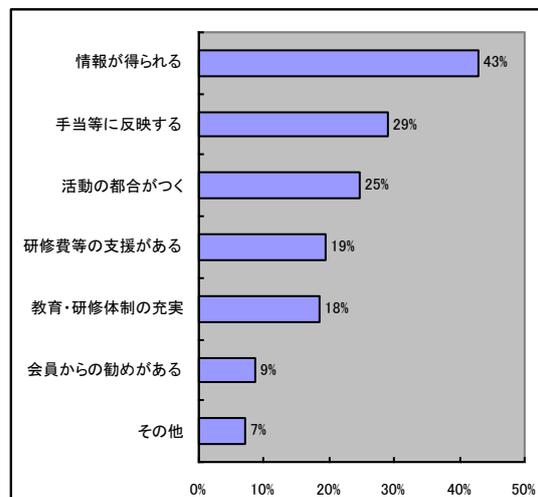


図4 介護福祉士会への入会条件（複数回答）

3. 介護福祉士会へ期待する役割について

介護福祉士会へ期待する役割については次のような回答となった。「労働条件の整備等、長期に働ける支援」が最も多く、入会者 59 名 (83%)、非入会者 86 名 (75%) であった。次いで、「介護福祉士が職能団体として認識されるための活動 (基盤強化・整備)」で、入会者 29 名 (41%)、非入会者 34 名 (30%)、「専門職としての自己意識向上に関する活動」で、入会者 21 名 (30%)、非入会者 34 名 (30%) などとなっている。(図 5)

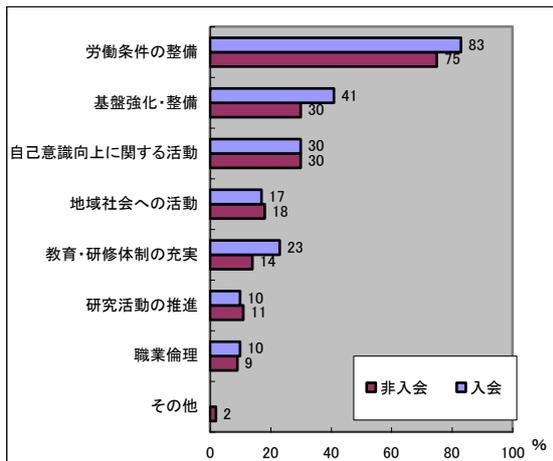


図 5 介護福祉士会へ期待する役割 (複数回答)

4. 介護福祉士の資格を取得した理由について

介護福祉士の資格取得理由は次のような回答となった。「働きがいのある仕事だと思った」が最も多く、入会者 34 名 (48%)、非入会者 58 名 (51%) であった。次いで、「仕事で資格・技能が活かせる」で、入会者 26 名 (37%)、非入会者 53 名 (46%)、「お年寄りや障害のある方々を支援したいと思った」で、入会者 22 名 (30%)、非入会者 38 名 (33%)、「国家資格だから」で、入会者 27 名 (38%)、非入会者 29 名 (25%) などとなっている。(図 6)

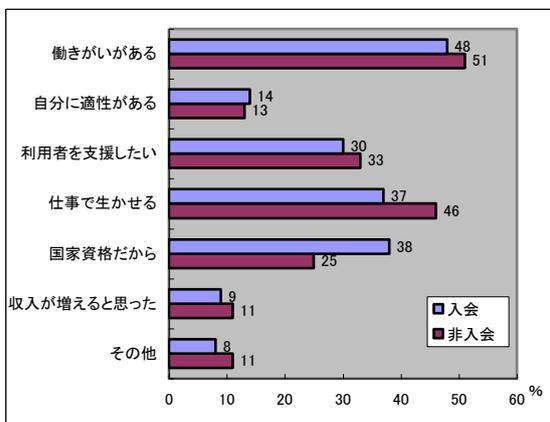


図 6 介護福祉士の資格取得理由 (複数回答)

5. 介護福祉士の資格取得方法について

年齢階層別資格取得方法についてみると、20代・30代は「介護福祉士養成施設」が多く、40代以上は「実務経験+国家試験」が多かった。(図 7)

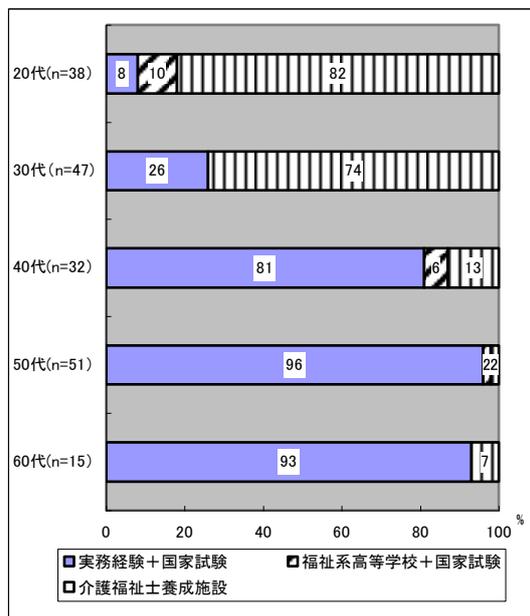


図 7 年齢階層別資格取得方法

介護福祉士の資格取得方法として最も多かった回答は、「実務経験+国家試験」105名で、入会者 29名 (28%)、非入会者 76名 (72%) 次いで、「介護福祉士養成施設」73名で、入会者 38名 (52%)、非入会者 35名 (48%)、「福祉系高等学校+国家試験」7名で、入会者 4名 (57%)、非入会者 3名 (43%) となっている。「実務経験+国家試験」での資格取得者の加入率が極めて低い。(図 8)

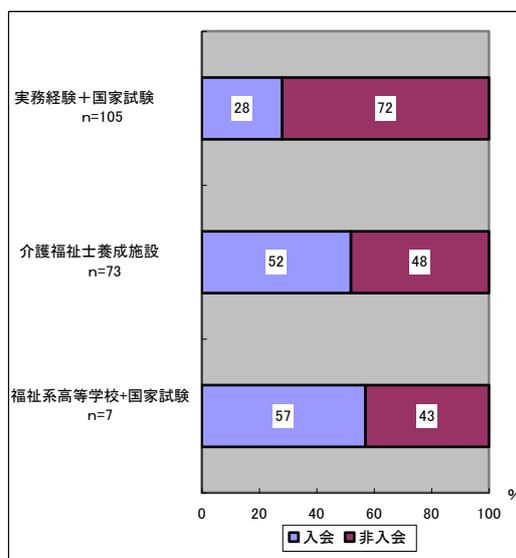


図 8 介護福祉士資格取得方法と入会の有無

IV. 考察

美祢市内の事業所に勤務する介護福祉士会への加入率が38%で、山口県及び日本介護福祉士会の加入率と比較すると高いことが明らかになった。こうした加入状況の背景には、専門職としての自己研鑽の動機や情報を得るなどの実利的な動機、また他者からの勧誘など多様な入会動機が存在している。介護福祉士会へ入会者は、資質を高めるために専門職として必要だと感じ高い志を持っているのではないだろうか。また、働きがいのある仕事だと感じ、国家資格で技能が生かせ、お年寄りや障害のある方々を支援したいと思っている傾向があると考えられる。

それに対し、非入会者は、入会金や会費等お金がかかるからと感じており、資格の取得で満足している傾向がうかがえる。さらに美祢市は、高齢化率もさながら、介護福祉士の年齢層も高く全体の54%を40歳以上が占めている。「実務経験+国家試験」で資格を取得した人が57%であり、「介護福祉士養成施設」や「福祉系高等学校」のように介護福祉士会についての説明等受けることもなく、資格の取得で満足したと考えている人が多いと思われる。

また、介護福祉士会へ入会しない理由は加入率向上のための様々な示唆を含んでいるが、現状として「介護福祉士会の存在を知らない」(21%)、「誰にも勧められない」(13%)、「手続きが面倒くさい」(11%)、「入会方法がわからない」(11%)、「興味はあるがきっかけがない」(9%)と回答した人もいた。そこから、介護福祉士会としての情報提供不足や現会員の勧誘不足も浮き彫りになった。さらに、「入会していたが脱会した」と回答した人が16%存在し、脱会の防止策についても検討の必要性があると考えられる。

今後、非入会者に対し、各事業所の理解と支援の元で介護福祉士会の活動の都合をつけやすくし、同僚の理解を深め、また研修費等の金銭面のサポートを受けることなどの、環境を整えることにより加入率が向上する可能性が高いと思われる。

資格取得理由については働きがいという回答が最も多かったことは介護福祉士のキャリアを内面から支える柱であることを示している。

資格取得方法については入会率が違うことが明らかになった。「介護福祉士養成施設」出身者に加入率が高く、「実務試験+国家試験」で取得した場合は加入率が低い。「介護福祉士養成施設」や「福祉系高等学校」では介護福祉士会への存在を認知させる機会が多いのではないかと。実務経験からの叩き上げについては広報活動をいかに効果的に進めていくかが加

入率向上において重要である。

V. 結論

労働条件の整備・改善や介護福祉士の地位向上は誰しも願うことは一緒である。しかし、他人まかせではなく有資格者一人一人が意識を変容させ一丸となって取り組み、行動を起こすことが今後必要かつ重要になってくると考えられる。ブロック編成も現在見直している最中であり、美祢市全体で統一した活動ができるように努力していくことが望まれる。

また、情報交換や勧誘など現会員がアプローチすることにより、加入率が向上する可能性が高い。加えていうまでもないが、介護福祉士の労働条件の整備や長期的キャリア、展望が図れるような支援について介護福祉士会が明確な立場を打ち出すことが必要であろう。

今回、山口県介護福祉士会の会員を対象に職能団体についての意識調査も同時に実施したが、今後の継続研究として取り組んでいく予定である。

謝辞

本研究にあたり、アンケート調査に御協力くださった関係事業所の責任者及び介護職員の皆様に深く感謝いたします。

また、ご指導いただきました矢原隆行先生、福井祐介先生に心からお礼申し上げます。

引用・参考文献

- 1) [http://mwkp.fresheye.com/mb/m_hp\(2011.11\)](http://mwkp.fresheye.com/mb/m_hp(2011.11))
- 2) 山口県介護福祉士会 事務局調査(平成23年2月)
- 3) 社団法人日本介護福祉士会 介護実習指導者テキスト
- 4) 社団法人山口県看護協会 平成22年度通常総会資料
- 5) 社団法人山口県作業療法士協会 事務局調査(平成23年2月)
- 6) アンケートの作成に際しては以下の文献を参考
本間美幸・八巻貴穂・佐藤郁子「介護福祉士の専門性に関する研究～福祉施設介護職責任者の意識調査から～」『人間福祉研究』(2008 No. 11,39-49)